

たせ
「田瀬ダム湖活用環境整備事業」

東北地方ダム管理フォローアップ委員会
審議結果の報告

平成17年8月9日

事後評価実施要領及び細目について

H15.3.31 国土交通省事務次官通知 第4 1項(6)

「ダム等の管理に係るフォローアップ制度」の対象となるダム事業において、当該制度に基づいた手続きが行われる場合については、本要領に基づく事後評価の手続きが行われたものと位置付けるものとする。

H16.1.9 国土交通省河川局長通知 第4 1項(4)

実施要領第4 1 (6)の規定に基づき手続きを行った場合には、その結果を事業評価監視委員会に報告するものとする。

平成16年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会

委員名	役職	備考
野池 達也	東北大学教授	委員長
中村 玄正	日本大学教授	
小野 泰正	岩手大学名誉教授	
高取 知男	仙台市科学館	
小笠原 暁	秋田大学名誉教授	
佐々木 幹夫	八戸工業大学教授	
石川 忠晴	東京工業大学教授	
菅原 亀悦	岩手大学名誉教授	
佐藤 嘉倫	東北大学教授	
堺 茂樹	岩手大学教授	
鈴木 浩	福島大学教授	

委員会実施時点役職

順不同・敬称略

ダム湖活用環境整備事業の目的と概要

■目的と概要

・多くの人々が安全かつ快適に湖面やその周辺で余暇活動が行われるように、ダム湖周辺の環境整備を行う。

■ 事業の経緯

- ・昭和55年から整備開始
- ・平成12年に整備終了(国事業)

■ 整備方針

ダム湖周辺を、「訪れる人が『地域の風土(自然・伝統・人)』とやさしく触れ合うことができる場所」としていくことを基本的な考えとしています。

■ 事業費

国	: 4,204百万円
東和町、宮守村	: 2,154百万円
計	: 6,358百万円

ダムの建設

(ダム湖の持つレクリエーション資源)



(ダム本来の目)

- 水害の防止
- 発電用水
- かんがい用水

- 広大な水面
- 豊かな緑

- 施設整備
- 環境整備

ダム湖
活用環境
整備事業

安全で快適な
余暇活動の場

人の交流

地域の活性化

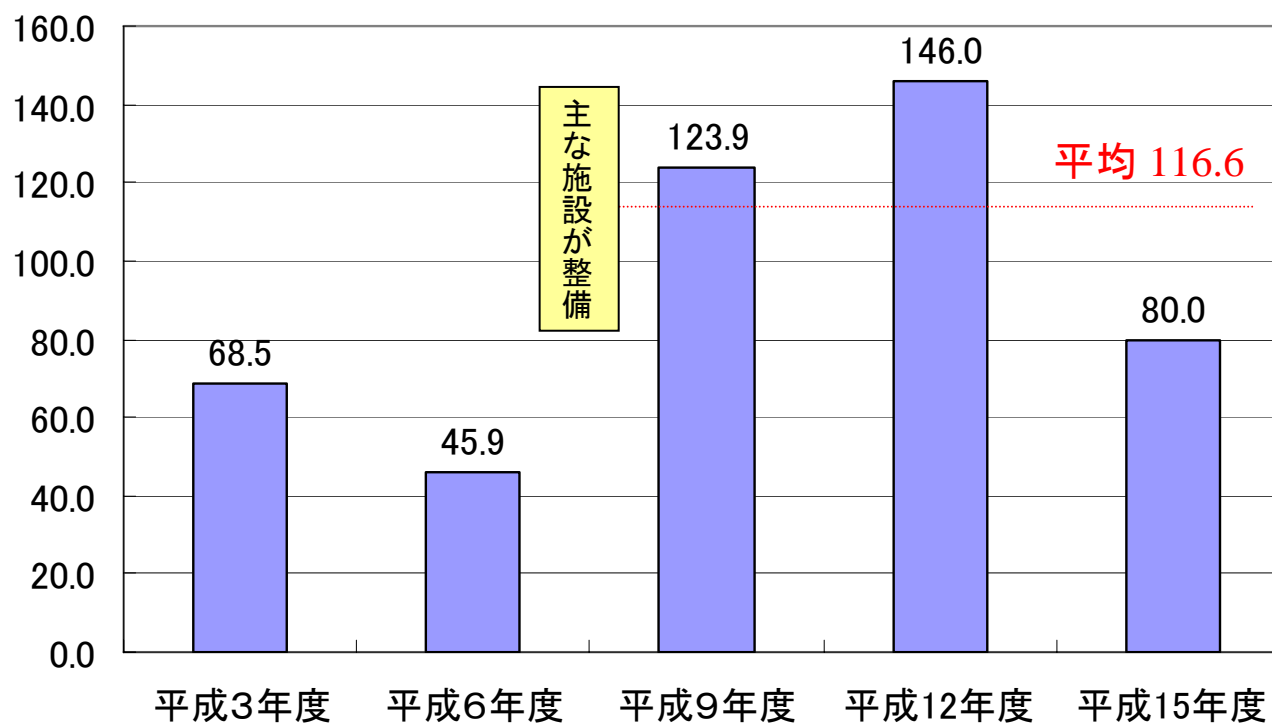
田瀬ダム湖活用環境整備事業の整備地区



ダム周辺施設の利用状況

■ダム湖活用環境整備事業（旧事業名：ダムレイクリゾート事業）により主な施設が平成6年までに整備された。その結果、近年の田瀬ダムの周辺施設利用者数は約12万人となっている。

年間利用者数の状況(千人)



■ 整備の進展により、施設を活用したイベントが継続的に行われている。これにより、周辺地域の活性化が図られている。

イベント(森林探検、ダムサイト地区)



イベント(湖水まつり、白土地区)



イベント(魚つかみどり大会、柏木平地区)



湖面利用(大会風景、向田瀬地区)
(日本ボート協会公認B級コース)



周辺環境整備事業の費用便益比

■ダム湖周辺域環境整備についての費用便益比は**B/C=1.1**

○「ダム周辺環境整備事業における費用便益分析の手引き(案)」に基づき算出

便益(B)	費用(C)	事業効果(B/C)
11,509百万円	10,411百万円	1.11

便益算定の基本的手法は旅行費用法 (TCM:Travel Cost Method) による

審議結果

今後の事後評価の必要性

田瀬ダムにおいては、ダム周辺施設の利用者数も多く、またダム湖周辺において様々なイベント活動が行われているなど、田瀬ダム湖活用環境整備事業の効果が発現されていると考えられます。したがって、今後の事後評価の必要性はないと判断されます。

改善措置の必要性

特になし

同種事業の計画・調査のあり方、事後評価手法の見直しの必要性

環境整備事業に関する費用対効果分析の手法については、今後も検討する必要があります。